

事業概要－創刊にあたって－

昭和 53 年（1978）に「鯖江市資料館」として開館した当館は、主に歴史資料および考古資料を展示・保存する博物館施設として活用され、その後、郷土出身画家の作品群が多数寄贈されたことにより美術分野も強化された。さらに、貸館機能を加えたことで、より市民に開放された施設として親しまれるようになった。しかし、開館から約 30 年を経て、社会情勢の変化や市民の価値観の多様化等により施設面・運営面での諸問題が浮上し、より多くの市民が活用できる施設の機能が求められるようになっていた。このような経緯から、歴史・芸術・民俗・産業・自然科学等に関する活動や交流の場を提供し、市民の教養、学術および文化の発展に寄与することを目的とする博物館・美術館複合施設として改修工事を実施し、平成 22 年 2 月 27 日、「鯖江市まなべの館」としてリニューアルオープンした。

当館の常設展示は、2 階展示室で古代から近世に至る鯖江の歴史を紹介し、3 階展示室では鯖江ゆかりの作家クリ・ヨウジ氏と西山真一氏の作品を紹介している。さらに、リニューアルを機に、1 階の展示ホールを創造空間（貸ギャラリー）として市民に開放したことで、当館は多彩な芸術文化活動の披露の場としても賑わいを見せ、当館の来館・利用者は年々増加している。

また、当館職員は教育委員会文化課事務局を兼務しており、企画展示・市美術展・文化振興業務・歴史資料調査・文化財保護業務など多岐にわたる文化・歴史・芸術に関する事業を展開しており、より広範な文化活動を支援する体制を整えている。

平成 28 年度事業は、企画展では「幕末・明治写真展」・「ちびまる子ちゃん展 in さばえ」・「祭りと祈りの原風景」の 3 事業を実施し、幅広い世代の入館者を得た。創造空間事業（貸ギャラリー）では 38 事業が実施され、写真・絵画・造形・書道・工芸など様々な分野で活動する作家・グループの作品展のほか市内高校生の卒業制作展も開催された。このほか、多数の教育普及事業を実施しており、市民に親しまれる文化芸術交流の場として着実に歩みを進めている。また、リニューアルオープンから 6 年目となる平成 28 年 7 月 3 日には来館者 20 万人を達成している。

本紙の創刊が、博物館（文化課）がこれまで得た知見や成果を公開し、文化・芸術活動に寄与する一助となれば幸いである。



鯖江市まなべの館（リニューアル部分：建物左）



来館者 20 万人達成（平成 28 年 7 月 3 日）